

**公開版**

## 平成28年度 教育委員会 第1回定例会 議案

1 日 時 平成28年4月4日（月） 午後2時30分

2 場 所 教育委員会議室

3 日 程

(1) 開 会

(2) 議 事

<非>第1号議案 平成27年度永年勤続者表彰被表彰者（追加）の決定 …非

(3) 報告事項

(4) 閉 会

静岡県教育委員会

第1回定例会 報告事項

番号	項 目	Page
1	平成28年度教育委員会事務局所属長報告	1
2	監査結果に関する報告	3
3	平成28年度静岡県公立高等学校入学者選抜結果の概要	5
配付 報告	第7回青少年教育施設等安全対策委員会報告	7

報告事項 1  
(件名)

平成 28 年 4 月 4 日

平成 28 年度教育委員会事務局所属長等報告

---

(教育総務課)

年度当初にあたり、教育委員会事務局所属長等より報告する。

平成28年度教育委員会所属長等名簿

平成28年4月1日

No.	所 属 名	職 名	氏 名	前 所 属 ・ 職 名
1		教 育 長	木苗直秀 <small>きなえ なおひで</small>	(静岡県立大学学長)
2		教 育 次 長	杉山行由 <small>すぎやま ゆきよし</small>	(経営管理部職員局長)
3		教 育 監	水元敏夫 <small>みずもと としお</small>	(静岡高等学校長)
4	教 育 総 務 課	理事兼課長	北川清美 <small>きたがわ きよみ</small>	社会教育課長
5	教 育 政 策 課	課 長	小野田裕之 <small>おののだ ひろゆき</small>	経営管理部職員局人事課参事
6	〃	情 報 化 推 進 室 長	本村勉 <small>もとむら つとむ</small>	財務課課長補佐兼教育予算班長
7	〃	人 権 教 育 推 進 室 長	遠藤宗男 <small>えんどう むねお</small>	人権教育推進室主席主任指導主事
8	財 務 課	課 長	長澤由哉 <small>ながさわ よしや</small>	(企画広報部政策企画局地域政策課長兼内陸フロンティア推進室)
9	福 利 課	課 長	南谷高久 <small>みなみや たかひさ</small>	教育総務課事務統括監兼法規・給与班長
10	義 務 教 育 課	課 長	林剛史 <small>はやし たけし</small>	(文部科学省初等中等教育企画課専門官)
11	〃	幼 児 教 育 推 進 室 長	藤本眞二 <small>ふじもと しんじ</small>	熱海市立泉中学校校長
12	高 校 教 育 課	課 長	渋谷浩史 <small>しげや ひろふみ</small>	(教育政策課長)
13	特 別 支 援 教 育 課	課 長	山崎勝之 <small>やまざき まさゆき</small>	静岡視覚特別支援学校校長
14	健 康 体 育 課	理事兼課長	福永秀樹 <small>ふくなが ひでき</small>	スポーツ振興課長
15	社 会 教 育 課	課 長	山本知成 <small>やまもと ともしげ</small>	教育政策課長
16	文 化 財 保 護 課	課 長	赤石達彦 <small>あかいし たつひこ</small>	埋蔵文化財センター所長
17	静 東 教 育 事 務 所	所 長	奥村篤 <small>おくむら あつし</small>	義務教育課人事監兼課長補佐兼人事班長
18	静 西 教 育 事 務 所	所 長	山本裕祥 <small>やまもと ひろよし</small>	静西教育事務所次長兼地域支援課長
19	埋 蔵 文 化 財 セ ン タ ー	所 長	堤敏幸 <small>つつみ としゆき</small>	高校教育課参事兼課長補佐兼総務企画班長
20	中 央 図 書 館	館 長	河原崎全 <small>かわらさき あきら</small>	(相良高等学校校長)
21	総 合 教 育 セ ン タ ー	所 長	吉澤勝治 <small>よしざお かつじ</small>	静岡中央高等学校校長
22	焼 津 青 少 年 の 家	所 長	吉田達男 <small>よしだ たつお</small>	(小笠高等学校事務長)
23	観 音 山 少 年 自 然 の 家	所 長	雪島こず江 <small>ゆきしま こずえ</small>	(袋井市立今井小学校校長)
24	富 士 山 麓 山 の 村	所 長	齋藤祐幸 <small>さいとう ひろゆき</small>	(田方農業高等学校事務長)

※前所属・職名欄の( )書きは、26年度末人事異動以前の異動による前所属・職名

## 監査結果に関する報告

(財務課)

### 1 監査の結果

平成 28 年 3 月 29 日に、今年度 5 回目の監査結果の報告があった。

今回は、平成 28 年 2 月 9 日から 3 月 14 日までに実施した県立学校の監査についての報告で、教育委員会については、別紙のとおり、11 所属のうち 1 件の指摘、3 件の注意が付された。

### 2 指摘等事項の概要

指摘の 1 件は、土肥高等学校の「教職員公舎での火災の発生」である。

注意の 3 件は、「教員による傷害事件の発生」が 1 件、「交通加害事故の発生」が 2 件である。

### 3 今後の対応

監査結果に対する措置状況は、平成 28 年 6 月 29 日までに監査委員へ報告する。

(別紙)

指摘 1 件

監査箇所	指 摘 等 事 項	
土肥 高等学校	件 名	教職員公舎での火災の発生
	内 容	平成 27 年 10 月、土肥高等学校の教職員公舎で、入居している教員の部屋の一部が火災により損傷した。平成 24 年度にも同校の教職員公舎で火災が発生しており、再発防止策が不十分であった。

注意 3 件

監査箇所	指 摘 等 事 項	
浜松商業 高等学校	件 名	教員による傷害事件の発生
	内 容	浜松商業高等学校の教諭は平成 27 年 4 月、自宅で妻を手で突き飛ばして床に転倒させ、顔面を拳で 1 回殴るなどの暴行を加え、傷害容疑で逮捕された。
浜北西 高等学校	件 名	交通加害事故の発生
	内 容	平成 24 年度から 26 年度に連続して交通加害事故が発生していた。
浜名 高等学校	件 名	交通加害事故の発生
	内 容	平成 24 年度から 26 年度に連続して交通加害事故が発生していた。

平成28年度静岡県公立高等学校入学者選抜結果の概要

(高校教育課)

1 入学者選抜の概要 ( ( ) 内の数字は平成27年度選抜のデータを示す。)

(1) 全日制の課程

項目	一般選抜	特別選抜				再募集	合計
		海外帰国生徒選抜	外国人生徒選抜	長期欠席生徒選抜	進路型選抜		
実施校数 ※1	93 (93)	15 (15)	9 (9)	3 (3)	3 (3)	27 (33)	
実施科数 ※2	165 (170)	16 (16)	13 (13)	4 (4)	3 (3)	37 (40)	
募集定員 ※3	21,545 (21,736)	8+若干名 (8+若干名)	若干名 (若干名)	若干名 (若干名)	定めない (定めない)	398 (507)	※4 21,890 (22,085)
志願者数	23,427 (23,151)	20 (33)	19 (16)	26 (16)	151 (135)	60 (62)	23,703 (23,413)
受検者数	23,276 (23,008)	20 (33)	17 (15)	24 (16)	150 (135)	60 (62)	23,547 (23,269)
合格者数 ※5	21,346 (21,364)	17 (25)	13 (12)	18 (15)	149 (135)	54 (49)	21,597 (21,600)
実質倍率	1.09 (1.08)	1.18 (1.32)	1.31 (1.25)	1.33 (1.07)	1.01 (1.00)	1.11 (1.27)	

※1 分校等を1校と数える。

※2 小学科数を示す。くくり募集は1科として数える。

※3 一般選抜の募集定員には、特別選抜の募集定員を含む。

※4 募集定員の合計は、定員策定時(11月発表)のものであり、併設する中等部からの入学予定者数を含む。

※5 併設する中等部からの入学予定者数(沼津市立沼津70人、清水南116人、浜松西159人)を含まない。中等部からの入学予定者を含むと、合格者数合計は21,942人となる。

(2) 学年制による定時制の課程

項目	一般選抜	再募集	合計
実施校数	18 (18)	17 (16)	
実施科数	18 (18)	17 (16)	
募集定員	720 (720)	424 (344)	※ 720 (720)
志願者数	335 (423)	34 (42)	369 (465)
受検者数	329 (414)	33 (40)	362 (454)
合格者数	297 (378)	32 (30)	329 (408)
実質倍率	1.11 (1.10)	1.03 (1.33)	

※募集定員の合計は、定員策定時(11月発表)のものである。

(3) 単位制による定時制の課程

項目	春季		秋季	合計
	一般選抜	再募集		
実施校数	3 (3)	3 (1)	3 (3)	
実施科数	3 (3)	3 (1)	3 (3)	
募集定員	576 (576)	106 (53)	64 (64)	※ 640 (640)
志願者数	486 (604)	20 (6)	— (80)	— (690)
受検者数	480 (590)	20 (6)	— (77)	— (673)
合格者数	470 (526)	18 (6)	— (64)	— (596)
実質倍率	1.02 (1.12)	1.11 (1.00)	— (1.20)	

※募集定員の合計は、定員策定時(11月発表)のものである。

2 学力検査の結果

平均点 (50点満点) 及び標準偏差 ( ( ) 内の数字は平成27年度選抜のデータである。)

教科	平均点	標準偏差
国語	29.65 (32.94)	7.34 ( 6.68)
数学	22.84 (23.57)	8.07 ( 9.24)
英語	27.98 (29.68)	10.84 (10.82)
社会	31.79 (30.90)	9.43 ( 9.07)
理科	19.79 (28.68)	8.52 (10.22)
合計(参考)	132.05(145.77)	
実施校数	93校 (93校)	

※分校等を1校と数える。  
全日制の課程のみ。

3 一般選抜学校裁量枠における学校独自選抜資料実施校・科数  
( ( ) 内の数字は平成27年度選抜のデータである。)

	学校裁量枠設定校 全日制86校147科	
	実施校	科
作文	7 ( 7)	9 ( 9)
実技検査	79 (78)	127 (130)
適応力検査	4 ( 4)	5 ( 5)

※分校等を1校と数える。  
全日制の課程のみ。



平成 27 年度第 7 回県立青少年教育施設等安全対策委員会報告

（社会教育課）

1 目的

三ケ日青年の家海洋活動プログラム構成について検討するとともに、マニュアルの整備状況及び海洋活動再開までの準備状況を確認する。

2 日時

平成 28 年 3 月 23 日（水） 午前 10 時から 11 時 30 分

3 場所

県庁別館 7 階第 1 会議室

4 参加者

安全対策委員会委員（教育次長、教育委員会関係課長、危機管理関係課長、青少年教育施設等所長）、寺尾裕氏（船舶機械工学専攻）、鉄多加志氏（海洋活動専門家）

5 内容

(1) 海洋活動プログラム構成検討

ダブルハルカヌー導入の検討（安全性、旋回性能比較）

(2) 海洋活動マニュアル整備状況確認

ダブルハルカヌー導入に関連して新たに作成・追加したマニュアルの確認

(3) 海洋活動再開準備状況確認

海洋活動再開までの日程（予定）や、研修、訓練計画等を確認

6 確認結果

(1) 海洋活動プログラム構成について ※別紙参照

- ・ 新たに導入を検討しているダブルハルカヌーは、これまで検討していたアウトリガーカヌーよりも安全性、旋回性能とも高いことが確認された。
- ・ ダブルハルカヌー 2 艇を平成 28 年度中に導入し、海洋活動プログラムはこれまでのカッター、ローボート、カヤックにダブルハルカヌーを加えた 4 種目とする。

(2) 海洋活動マニュアル整備状況

新規導入予定のダブルハルカヌーに関する記述が追加された「海洋活動安全対策マニュアル」及び新たに作成された「ダブルハルカヌー指導マニュアル」は、いずれも安全に配慮された内容であることを外部有識者に確認した。今後は、ダブルハルカヌー納入後に所員研修や訓練を実施し、安全対策委員会で再度確認する。

(3) 海洋活動再開準備状況確認

海洋活動再開までの手順や指導者研修会の日程、及び更に安全体制を高めるための研修や訓練の実施状況等について三ケ日青年の家所長から報告を受け、海洋活動再開に向けての準備が整っていることを確認した。

平成28年度 三ヶ日青年の家 海洋活動プログラム構成

別紙

H28.4.4

社会教育課

種目	オール、パドル	艇数(利用者の定員)	特長	対象年齢(基本)	想定される利用状況
カッター	<ul style="list-style-type: none"> <li>長くて重く、扱いが難しい</li> <li>1~2人で1本のオールを操作</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4艇</li> <li>9m艇...2艇(12人乗り)</li> <li>7m艇...2艇(8人乗り)</li> </ul> ※各艇に所員が乗船	<ul style="list-style-type: none"> <li>他のプログラムと比較して最高速度が高く、乗員で息を合わせることができたときの達成感は大い</li> <li>乗下船時の人の移動や波の影響で横揺れがあるもの、船体の幅が広く安定感がある</li> <li>各艇に所員が乗船するため、活動者に直接指導が可能</li> </ul>	小学5年生以上	教育目的で利用する学校等、大人教団での利用
ダブルハルカヌー(新規)	<ul style="list-style-type: none"> <li>短くて軽く、扱いやすい</li> <li>1人1本のパドルを操作</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2艇(11人乗り)</li> </ul> ※各艇に所員が乗船	<ul style="list-style-type: none"> <li>カッターと比較して最高速度に達する時間が早く、乗員で息を合わせることができたときの達成感を得ることができる</li> <li>左右に同型の船を配置し、両艇に利用者が乗船するため、アウトリガーカヌーより安定性が高い</li> <li>旋回性能がアウトリガーカヌーより高く、取り回ししやすい</li> <li>各艇に所員が乗船するため、活動者に直接指導が可能</li> </ul>	(小学4年生以上)	教育目的で利用する学校等、大人教団での利用
ローボート	<ul style="list-style-type: none"> <li>軽い、操作に慣れるまでやや時間がかかる</li> <li>1人2本のオールを操作</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>19艇(3人乗り)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水との距離が近く、自然に親しむことができる</li> <li>3人乗りの小型船のため、乗下船や船内での移動時に特に注意が必要である</li> <li>活動艇数が多い場合、集団の把握が難しいため、少人数団体に適している</li> </ul>	小学5年生以上	自然に親しむことを目的とする少年団や主催事業での利用
カヤック	<ul style="list-style-type: none"> <li>軽く、扱いやすい</li> <li>1人1本のパドルを操作</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>21艇</li> <li>1人用...19艇</li> <li>2人用...2艇</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水との距離が非常に近く、水と一体になる感覚で自然に親しむことができる</li> <li>比較的落水しやすいプログラムである</li> <li>活動艇数が多い場合、集団の把握が難しいため、少人数団体に適している</li> </ul>	小学5年生以上	自然に親しむことを目的とする少年団や主催事業での利用

※海洋活動は将来的にカッター、ダブルハルカヌーの2種目とし、ローボート、カヤックは老朽更新を行わない。